

2017年度（39期） 事業計画書

自：2017年4月 1日

至：2018年3月31日



公益財団法人 関西盲導犬協会

京都府亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-2

公益財団法人 関西盲導犬協会 2017年度事業計画書
(2017年4月1日—2018年3月31日)

1. はじめに

日本が超高齢社会になった現在、盲導犬事業もその対策が喫緊の課題となっている。2017年3月末時点において、関西盲導犬協会の盲導犬実働数は78頭、盲導犬ユーザーは82名であり（夫婦で1頭の盲導犬を使用するタンデム方式が4組）、うち70歳以上の盲導犬ユーザーは19名（全体の23%）であり、60歳以上になると56%にいたる。この比率は今後確実に増加する。このように、盲導犬ユーザーのうち、多数を占める高齢者ユーザーに対し、当協会では、フォローアップの頻度を上げるとともに、より迅速な対応を目的に専任担当者を配置し、その充実を図ってきた。

2017年度は、高齢の盲導犬ユーザーのみならず、すべての盲導犬ユーザーに対するさらなる質的サービスの向上を目指し、以下の目標を中心に事業を展開する。

- (1) すべての盲導犬ユーザーに、安全な歩行、QOL（生活の質）を担保する盲導犬を貸与するため、犬の幼少期の教育に重点を置き、飼育方法や飼育ボランティアへの指導方法の見直しに取り組む。
- (2) 盲導犬ユーザーの経済的負担を軽減し、盲導犬として8年間の貸与期間を全うできるように、盲導犬の医療費補助を検討する。
- (3) 更新時期を迎えた盲導犬ユーザーが、盲導犬のリタイアを円滑に進め、安心して、次の盲導犬に移行できるように、リタイア犬ボランティアに対するリタイア犬支援制度の改善を検討する。
- (4) 繁殖犬・パピー・盲導犬・リタイア犬等、当協会の所有犬に対する飼育費用負担の不均一化を解消するため、飼育費用の負担（ドッグフード代・医療費）について見直しを検討する。
- (5) リタイア犬ならびにキャリアチェンジ犬（盲導犬にしなかった犬）の有効活用のため、それらの犬を伴った福祉施設ならびに病院等への訪問を、ボランティアの協力を得て実施しているが、この取り組みを「フレンドドッグ事業」と位置づけ、事業化を促進する。
- (6) ホーム転落事故等、盲導犬ならびに盲導犬ユーザーがかかわる重大事故の防止、ならびに盲導犬や視覚障害についての正しい情報を提供するため、啓発内容の見直しに取り組むとともに、当協会の情報発信力を向上させる。
- (7) 昨年度は木香テラスを竣工したが、他の既存建物は築30年を迎え、老朽化に伴う不具合が目立ってきた。職員の労働環境の改善、盲導犬ユーザー、寄付者、協力者に心地よい環境を提供できるよう、事業継続に必要な箇所改築、施設の改修を行なう。
- (8) 事務系職員の定年退職ならびに管理体制の見直しを図るため新規職員を採用する。

2. 公益事業部門

2-1. 盲導犬および視覚障がいに関する事業

(1) 貸与計画

①今年度は10頭の盲導犬を育成し、12人の視覚障がい者に貸与する。

※夫婦で1頭の盲導犬を使用するタンドム方式が2組

②内訳は、新規2名、代替者10名

(2) 貸与委員会の開催

公正な盲導犬貸与を実施するため第三者委員で構成された盲導犬貸与委員会を毎月1回開催する。

(3) フォローアップ

①専任指導員による定期的なフォローアップを実施する。

②引退を控えた盲導犬に対する健康診断を継続実施する。

③盲導犬ユーザーの居住地域の行政ならびに団体と連携した体制を構築する。

④盲導犬に対する医療費助成を検討する。

(4) 新規の盲導犬貸与希望者への働きかけ

①盲導犬貸与希望者への体験歩行と体験生活を実施する。

②行政ならびに関係団体と連携し、新規希望者へのアプローチを強化する。

③盲導犬貸与希望者の優先順位の見直しを検討する。

④共同訓練ならびに盲導犬貸与にかかる「重要事項説明書」を作成する。

(5) 犬の育成

①35頭の子犬を確保し、パピーウォーカー(子犬飼育ボランティア)に委託する。

②盲導犬訓練士の主導のもと「犬学」を基本とした飼育管理ならびにボランティア指導を実践する。

③獣医師会と連携した犬の健康管理体制を実施する。

④盲導犬候補犬・繁殖候補犬の確保、ならびに訓練技術の向上を目的に、他補助犬育成団体と積極的な交流を行なう。

⑤リタイア犬に対する支援制度の改善を検討する。

⑥当協会の所有犬(繁殖犬・パピー・盲導犬・リタイア犬)に関する飼育費用の負担(ドッグフード代・医療費)を検討する。

(6) 盲導犬歩行指導員ならびに盲導犬訓練士の養成

認定NPO法人全国盲導犬施設連合会主催セミナーならびに歩行指導員等資格認定における研修会へ職員を派遣する。

(7) フレンドドッグ事業

ボランティアの協力のもとリタイア犬ならびにキャリアチェンジ犬を伴い福祉施設・病院等への訪問を継続するとともに、検討委員会を立ち上げ、事業化に向けた具体案を策定する。

(7) 調査研究

京都大学大学院文学研究科と「木香テラスの有用性」に関する共同研究を実施する。

2-2. 相談事業

認定NPO法人全国盲導犬施設連合会ならびに行政窓口と連携し、盲導犬ユーザーや一般市民からの相談ならびに苦情を受け、その解決に向けた対応を行なう。

2-3. 啓発普及事業

(1) 啓発普及活動

- ①月1回の定例見学会を開催する。
- ②講演・実演・啓発イベントへ職員ならびに担当者を派遣する。
- ③行政ならびに視覚障がい者団体等と連携して啓発普及活動を行なう。
- ④機関誌「ハーネス通信」ならびにホームページの内容の充実を図り、盲導犬事業に関する啓発ならびに情報発信力を強化する。
- ⑤啓発イベントならびに実演を担うサポーターを養成する。
- ⑥啓発用ショートムービーの作成、ならびにホームページの刷新を通じて、啓発の効果を高める。

(2) 協会主催・共催イベント

- ①協会主催イベントとしてオープンデー・慰霊の日・ボランティアズデー・木香テラスイベントを実施する。
- ②京都府の視覚障がい者団体が主催する共催イベントとして、愛ラブフェア・視覚障害者マラソン・白杖安全デーに参加する。

3. 管理部門

- ①安定的な事業運営のため、寄付支援者、賛助会員、募金箱設置、街頭募金への働きかけを継続的に行う。
- ②寄付ならびに事業への協力を呼びかける新規パンフレットを作成する。
- ③協会運営に必要な規程を整備・見直しを行なう。
- ④事務的な経費を削減するための見直しを行なう。
- ⑤パート職員1名を正職員として採用する。

4. 施設整備計画

- ①老朽化ならびに木香テラスと調和した敷地整備のために、正面ゲートの改修を行なう。
- ②旧犬舎を含めたエリアの活用を検討する。

5. その他

(1) 職員について

		正職員数	パートタイマー	資格取得年数
管理部門	管理・事務職	6	1	
	普及啓発	2		
訓練部門	盲導犬歩行指導員	4		2002年2名、2014年1名、 2016年1名 ※上記4名は盲導犬訓練士の有資格者
	盲導犬訓練士	3	1	2008年1名、2011年1名、 2012年1名 2009年1名（パートタイマー）
	パピー担当者	1		
	繁殖担当者	1		
計		17	2	

(2) 訓練士・歩行指導員等のキャリアアップの状況

訓練犬の訓練頭数ならびに視覚障がい者の歩行指導回数等、日本盲人社会福祉施設協議会の自立支援部会盲導犬委員会ならびに認定 NPO 法人全国盲導犬施設連合会の策定した基準に則り、訓練士ならびに歩行指導員を養成。その他に、国際盲導犬連盟、アジアブリーディングネットワーク（AGBN）、視覚障害リハビリテーション協会等の主催するセミナーや会合などに積極的に参加して、訓練技術や視覚障害に関する知識のキャリアアップを実施する。

(3) 訓練について

犬のステージ	期間 (犬年齢)	訓練のステージ	担当職員	内容
子犬	生後 50 日～ 1 歳	パピーウォーキング	パピー担当	パピーウォーカー（子犬飼養ボランティア）宅での基本的な躰や生活
訓練犬	1 歳～ 約 2 歳	候補犬の訓練	訓練士 歩行指導員 犬舎管理担当	直線歩行・障害物回避・段差発見・公共交通機関の利用・ステイ（待つこと）・生活訓練（食餌・排泄等）
	約 2 歳	共同訓練 （2 週間～ 4 週間）	歩行指導員	視覚障がい者と訓練犬との歩行訓練ならびに生活訓練
盲導犬	2 歳～ 10 歳	フォローアップ	歩行指導員	盲導犬ユーザーが安全な歩行かつ快適な生活を持続するために、盲導犬貸与後年 1 回以上のフォローアップの実施

(4) 施設について

①施設の場所

〒621-0027 京都府亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-2

②敷地面積

亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-2 (5,715.71㎡)

亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-3 (2,486㎡)

亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷18-4 (393㎡)

亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷24-2 (105.98㎡)

③建物

a. 訓練センター棟（鉄筋コンクリート2階建て） 826㎡
事務所・厨房・食堂・ホール・宿泊室（7室）・犬用医務室・犬舎

b. 観察犬舎（鉄骨平屋建て）犬室4室 94.60㎡

c. ハーネス研修センター（木造2階建て） 宿泊室3室 122.84㎡

d. 木香テラス（木造一部2階建て）540.39㎡